

功労賞 個人8名と2団体を表彰 第15回定期総会

グループわの平成30年度功労賞に選ばれた個人8名・団体2グループが第15回定期総会で表彰されました。受賞者の喜びの言葉を前号に続きご紹介します。(順不同、敬称略)

- 会員表彰** ①坪井幸子(生環3期)前号掲載 ②中村吉宏(国際5期) ③森佳代子(生環6期)前号掲載
④西尾孟三(生環7期) ⑤佐伯義昭(国際8期) ⑥長谷川博(生環9期)
⑦土井昭政(国際10期)前号掲載 ⑧山田淑子(食文10期)前号掲載

- グループ表彰** ①神戸ぴかぴか隊(代表:今井晴美) ②書道部(代表:横田忠男)

継続は力なり

国際5期 中村 吉宏

この度、栄えあるグループわの賞を頂きありがとうございました。日頃何気なく続けておりましたボランティア活動を取り上げて、評価して頂いたものと信じます。振り返りみますに、卒業後約20年にわたり続けてまいりましたボランティア活動ですが、マジックの友愛訪問、震災館での外国人案内業務、かもめりあ施設での道案内にしましても、当人は相手の方、つまり訪問先の人、来客の反応である喜びを糧として長く継続してきたように思います。継続は力なりです。皆様も続けて居られますと、必ず周囲から評価されるものと信じます。



ボランティア活動での思い出

生環7期 西尾 孟三

表彰いただき、ボランティア活動を始めた頃のことを思い出しました。

老人ホームから水族園に行く車いす介護要請があり、老人10人と職員4人が来られた。老人は全員車いす利用者。職員の方と一緒に介助しながら見学した。夜行性魚を見学するため地下の暗室に入った時に、私が担当していた方が暗くて何も見えないから怖いと言われ、明るい場所へと強く要請があり職員に連絡したところ、30分程すると皆さんも地上に出ますから上で待っていて下さいと言われた。地上に出ると同行者が居ないのでパニック状態になり、大声を出された30分は非常に長かった。経験不足で対応の未熟さを反省させられた。



逆に、電車内で隣の車両から入ってきた男性が私の前に立ちニコリしているのです。よく見ると10年程前に係わっていたホームの利用者です。よく覚えてくれていたと嬉しくなりました。

老いも若きも「持ちつ持たれつ」

国際8期 佐伯 義昭

カレッジを卒業して〈わ〉に入り小学校の特別支援で活動しています。一日の時間割によって先生から「児童」「内容」などの支援依頼があり、彼らと接します。口には出しませんが「ありがとう」という感謝の気持ち湧いてきます。若い彼らと接することによって私の「ボケ防止」「健康づくり」「元気づくり」に役立っていると思うからです。帰る時に先生、児童から「ありがとうございました。さようなら」と別れの挨拶を頂いた時に、私も彼らに「さようなら、ありがとうございました。」と感謝のこぼを返して帰ります。私は、世の中老いも若きも「持ちつ持たれつ」の志が大切だといつも思っています。



「再び学んで他の為に」を实践

生環9期 長谷川 博

シルバーカレッジ、グループわと続いた16年間は、年の差、学歴、職歴を問わない中でお互い協力しながら「再び学んで他の為に」を实践してきました。今後も仲間と地域の方々と一緒に模索しながら前に進めたらと思っています。最後になりましたがご協力頂き、応援して頂いた方々に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。



更に大きくボランティア活動

神戸ぴかぴか隊代表 音文21期 今井 晴美

神戸ぴかぴか隊は、現役に引き続き多くの仲間が更に大きくボランティア活動の場を拓けているのが誇りです。神戸マラソンでは、目の前を駆け抜けていく神戸ぴかぴか隊のランナーに感動し、ルミナリエ及び1・17の集いでは震災被災者への鎮魂の想いを毎年新たに致します。今後も隊の設立理念の「楽しく 仲良く 元氣よく」をモットーに地域清掃・環境改善活動を続けて参ります。



書道ボランティアと生きがづくり

書道部代表 生環15期 横田 忠男

高齢者福祉施設の書道クラブには、100歳を超えた方も元気に活動されています。月に一度の練習日を心待ちにされ、半紙に向かって一点一画を丁寧に書かれている姿には、いつも敬服するばかりです。

私も65歳で書道再デビューを果たして10年。これからも自己研鑽に努め、生きがづくりのお手伝いが出来ればと願っています。

